【 81 】

氏名	赤 木 成 子
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1777 号
学位授与の日付	昭和62年 3 月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	**聴性脳幹反応聴力検査法の臨床応用に関する研究** **— サイン 1 波刺激音による気導および骨導 ABR —**
論 文 審 査 委 員	教授 堀 泰雄　教授 中山 沃　教授 大田原俊輔

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

0.5，1，2 および 4 k Hz サイン 1 波刺激による気導および骨導 ＡＢＲを記録し，その臨床的有用性と周波数特異性について検討した。

気導 ABR域値を48例64耳において標準純音聴力検査域値と，27例29耳において遊戯聴力検査域値と比較し，4 周波とも高い相関を認めた。伝音性および混合性難聴31症例40耳における ABR気骨導差と純音聴力気骨導差の比較で両者は高い相関を示し，両気骨導差の差値（ABR気骨導差－純音聴力気骨導差）は平均約 5 dB であり，各周波で 8. 1 から 10.8 dB の標準偏差があった。種々の聴力型の感音性難聴症例11例において ABRによる聴力型と純音聴力型を比較し，高音障害型では ABR聴力図の傾斜が純音聴力図の傾斜より緩やかであったが，いずれの聴力型においても互いに類似していた。

以上よりサイン 1 波刺激による気導・骨導 ABR に臨床的有用性と周波数特異性を認めた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文はサイン 1 波刺激による聴性脳幹反応を聴力診断に応用する可能性を探るため，気導聴性脳幹反応域値を標準純音聴力検査域値と比較，また小児の場合は遊戯聴力検査域値と比較していずれも高い相関を認めた。また聴性脳幹反応による骨気導差は純音聴力検査による骨気導差とほぼ一致したことを認めた。以上本論文は聴性脳幹反応の聴力診断への応用の可能性を開いた価値ある業績である。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。